



# 狛江市文化財

## 散策マップ

### 主なみどころ

<p><b>2 千手院</b> 東和川2-4-2 C-2</p> <p>山号を三島山、寺号を覺東寺と号し、かつての字名村名を冠した天台宗の寺院です。貞享5年(元禄元年・1688)に創建されたと伝えられています。</p>	<p><b>3 小足立八幡神社</b> 岩戸2-32-1 B-1</p> <p>江戸時代は、小さな社で小足立村の鎮守でした。由緒は不詳ですが、元禄10年(1697)の棟地帳には八幡宮地として書き上げられていました。</p>	<p><b>7 子之三嶋神社</b> 冠野1-17-9 B-1</p> <p>明治時代のはじめに、寛東村の一角が相談し、千手院の境内にあった三嶋神社を遷座して親之神社に合祀しました。現在は子之三嶋神社と呼ばれています。</p>	<p><b>4 白幡菅原神社</b> 碓方2-4-4 C-4</p> <p>江戸時代は玉泉寺に隣接していました。明治時代のはじめに、社を現在地に曳いてきたといわれ、その様子を描いた給馬が伝わっています。</p>	<p><b>5 日枝神社</b> 駒井町1-6-11 D-4</p> <p>もとは山権現と称し、江戸時代の記録によると、木の鳥居が立つ小さな祠でした。参道にはイチョウやケヤキの木が並び、秋には奇麗に色づきます。</p>	<p><b>6 圓住院</b> 駒井町1-6-10 D-4</p> <p>寺号を豊沙門寺と号する天台宗の寺院で、隣接する日枝神社の別当寺でした。文禄3年(1594)の野村川の検地帳にみられる豊沙門堂が、圓住院の前身だと考えられます。</p>	<p><b>7-a 明静院</b> 岩戸2-10-13 D-4</p> <p>享禄3年(1530)開創との記録がある天台宗の寺院で、隣接する岩戸八幡神社の別当寺でした。山門と本堂の間には、ケヤキの大樹がそびえ立っています。</p>	<p><b>7-b 木造薬師如来坐像</b> 明静院 D-4</p> <p>天正2年(1574)の制作で、腰前で法界定印を結び、現在は失われていますが、両手に薬壺を置いていたとみられます。一般的な薬師如来像には見られない印定薬師の姿が特徴です。 ※秘仏につき通常は非公開。</p>
<p><b>8 岩戸八幡神社</b> 岩戸南2-8-2 D-4</p> <p>戦国時代に、岩戸の秋元仁左衛門という人物が、鎌倉の鶴岡八幡宮にて催された大相撲に勝ち、懸賞の八幡神像を持ち帰って神社を勧請したとの伝承があります。</p>	<p><b>11 慶岸寺</b> 岩戸北4-15-8 D-3</p> <p>浄土宗の寺院で、江戸時代のはじめ頃に岩戸村の村人によって開基されたとの記録があります。</p>	<p><b>1 玉泉寺</b> 東和泉3-10-23 B-4</p> <p>永正元年(1504)の開創とされる天台宗の寺院です。北条氏政の新領所だったとの記録がありますが、多摩川沿いに位置していますが、洪水で流失し、現在地に移転したといわれます。</p>	<p><b>2 多摩川決壊の碑</b> 多摩川自由ひろば内 B-5</p> <p>昭和49年(1974)9月、大型の台風の影響で多摩川が増水すると、猪方地先の堤防が決壊し、家屋19棟が流失する大惨事となりました。平成11年(1999)にモニュメントが設置され、水害の怖さや治水の重要性を伝えています。</p>	<p><b>4 五本松</b> A-3</p> <p>「五本松」と呼ばれるクロマツの並木は、明治40年代の大洪水の後、築堤の際に植えられたといわれています。多摩川に五本松の風景を楽しむことができます。また、園内の玉蔵亭では、主に川魚料理を味わうことができます。</p>	<p><b>6 8 玉翠園跡</b> 中和泉4-15内 A-3</p> <p>大正2年(1913)に開業した「玉川清造」のための庭園の跡地です。園内には松の老木や桜などが林立し、東屋が設けられ、四季折々の風景を楽しむことができます。また、園内の玉蔵亭では、主に川魚料理を味わうことができます。</p>	<p><b>6-a 伊豆美神社</b> 中和泉3-21-8 A-3</p> <p>もとは六所明神と称し、寛平元年(899)に武蔵国の国府から大國魂大神を分霊してきたといわれています。天文19年(1550)の洪水で流失し、多摩川沿いから現在地に遷座しました。明治維新に際し伊豆美神社と改称されました。</p>	<p><b>6-b 伊豆美神社鳥居</b> A-3</p> <p>参道入口に立つ高さ約2.6m、柱間約1.5mの小振り石造鳥居です。材質は水崗岩と考えられます。慶安4年(1651)に、和泉村の領主石谷清定と三男貞清によって奉納されました。</p>
<p><b>6-c 井伊直道公敬慕碑</b> 伊豆美神社 A-3</p> <p>開国を成し遂げた井伊直道の功績と井伊家に儒学者として仕えた小町雄八の遺徳を伝える石碑で、明治34年(1901)に建てられました。台右には建碑の賛同者379名の名前が刻まれ、三多摩地域の有力者の名前も見られます。</p>	<p><b>7 7 玉川碑(万葉歌碑)</b> 中和泉4-14内 A-3</p> <p>「万葉集」の東歌の一首が刻まれた歌碑で、松平定信の揮毫になります。江戸時代後期に碓方村字半堤(現在の猪方団丁目)に建てられました。大正時代に、松平定信を敬慕する浪沢栄一に協力を仰ぎ、旧碑の拓本を模刻した歌碑が再建されました。</p>	<p><b>12-a 泉龍寺</b> 元和泉1-6-1 B-3</p> <p>奈良東大寺別当の良弁僧正が草創したといわれ、江戸時代初期に、曹洞宗の鉄叟瑞牛と和泉村領主の石谷清定が寺院として整備しました。徳川将軍家から朱印地20石を拝領し、境内は1万6,900坪に及びました。</p>	<p><b>12-b 泉龍寺の建造物</b> B-3</p> <p>山門の脇には、市の天然記念物に指定されているボダイジュが立っています。近隣では稀な大樹で、樹齢は300年以上と見うけられます。</p>	<p><b>6 井伊直道公敬慕碑</b> 伊豆美神社 A-3</p> <p>開国を成し遂げた井伊直道の功績と井伊家に儒学者として仕えた小町雄八の遺徳を伝える石碑で、明治34年(1901)に建てられました。台右には建碑の賛同者379名の名前が刻まれ、三多摩地域の有力者の名前も見られます。</p>	<p><b>6 井伊直道公敬慕碑</b> 伊豆美神社 A-3</p> <p>開国を成し遂げた井伊直道の功績と井伊家に儒学者として仕えた小町雄八の遺徳を伝える石碑で、明治34年(1901)に建てられました。台右には建碑の賛同者379名の名前が刻まれ、三多摩地域の有力者の名前も見られます。</p>	<p><b>6 井伊直道公敬慕碑</b> 伊豆美神社 A-3</p> <p>開国を成し遂げた井伊直道の功績と井伊家に儒学者として仕えた小町雄八の遺徳を伝える石碑で、明治34年(1901)に建てられました。台右には建碑の賛同者379名の名前が刻まれ、三多摩地域の有力者の名前も見られます。</p>	<p><b>6 井伊直道公敬慕碑</b> 伊豆美神社 A-3</p> <p>開国を成し遂げた井伊直道の功績と井伊家に儒学者として仕えた小町雄八の遺徳を伝える石碑で、明治34年(1901)に建てられました。台右には建碑の賛同者379名の名前が刻まれ、三多摩地域の有力者の名前も見られます。</p>

## 市の概要

狛江市は、多摩川の左岸、武蔵野台地の南縁に位置しています。市域の南部は、多摩川が形成した沖積低地ですが、台地と低地の高低差はわずかで、緩やかに南に傾斜する日当たりのよい環境が広がります。面積は、約6.39km<sup>2</sup>で、東は世田谷区、西と北は調布市、南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市に接しています。市域のほぼ中央を東西に小田急線が走り、バスによって京王線の調布・国領、東急線の渋谷・二子玉川、JR中央線の武蔵境などつながります。

南には多摩川、北には野川が流れ、水辺には野鳥が飛来し野草が萌生する豊かな自然が広がります。多摩川沿いからは対岸の研形山だけがでなく、丹沢や秩父の山並、さらには富士山を遠望することができます。また、樹林地や畑に残る緑は、武蔵野の野趣を偲ばせてくれます。

都心へのアクセスも良く、自然豊かで快適な住環境は、多くの人を惹きつけています。令和元年5月現在の人口は8万人を超え、住宅都市として発展を続けています。

### 市章

昭和45年10月1日制定

市制施行に際し、公募によって寄せられた作品の中から選ばれたものです。狛江の頭文字の「こ」を図案化し、中央の流線は多摩川の流れを表現しています。

**50th KOMAE CITY 狛江市**

2020年は狛江市市制施行50周年です。



### 市の木

イチョウ  
昭和48年4月1日制定

狛江第三中学校のイチョウ並木

### 市の花

ツツジ  
昭和48年4月1日制定

狛江教育発祥之地に咲くツツジ

市役所上空付近から多摩川方面を望む

表紙の写真は、上から左から民家園、六蔵さくら通りの桜並木、多摩水運橋、泉龍寺の鐘樓門、万葉歌碑、泉龍寺、狛江駅北口上空から多摩川方面を望む(昭和63年4月)

## 狛江の地形

左の地形図は、数値標高データをもとに、地表の高低差を色彩と陰影で強調した地図です。市域は、武蔵野台地の立川面と呼ばれる台地と多摩川によって形成された沖積低地に分けられ、概ね平坦な市域も高低差を強調すると台地から低地へ緩やかに傾斜していることがわかります。段丘面を見ると、市域のほぼ中央に縦断する谷筋が確認できます。旧野川によって形成された谷筋で、かつての野川はこの谷筋を蛇行しながら市域のほぼ中央を流れていました。また、狛江駅前の弁財天池から湧き出る地下水は、清水川を形成して東に延びる谷筋を流れていました。

古墳などの史跡や寺社の位置を地形図上に落してみると、台地の縁や低地でもその微高地に位置していることがわかります。私たちが無意識のうちに通り過ぎていく地形の変化を、昔の人は感じ取り、また、経験則から微高地が伝えられ、台地の縁や低地の中でも微高地に大切なランドマークを築いていたことに気づかされます。

まちなかを歩いてみると、崖線や谷筋など、起伏のある地形を体感できるポイントがいくつかあります。例えば、松原通りの田中橋の交差点から南方を眺めると…。地図を片手に地形体感ポイントを探してみませんか。

<p><b>き</b> 水神社前の坂</p> <p>六郷用水取水口の近く。台地と低地の境、ハケであることがよくわかります。</p> <p>A-3</p>	<p><b>と</b> 和泉多摩川交番跡</p> <p>多摩川沿いの低地から台地上に向かって緩やかに上っています。</p> <p>B-4</p>
<p><b>け</b> あいとおびあセンター脇の階段</p> <p>台地と低地の高低差がよくわかります。</p> <p>A-3</p>	<p><b>こ</b> ごまえくぼ1234舗</p> <p>かつての野川によってつくられた谷筋です。</p> <p>C-3</p>

## 狛江のあゆみ

狛江市の前身である狛江村は、明治22年(1889)の町村制の施行により、江戸時代から続く和泉・岩戸・駒井・猪方・寛東・小足立の6か村が合併して誕生しました。当時は、田んぼや畑が広がり、東京市中で消費される物資を供給する大都市の近郊農村でした。また、副業として養蚕が盛んに行われ、桑畑も広がっていました。大正12年(1923)の関東大震災は、東京西部の村々にとっても転機になりました。東京の下部地域で被災した人々が山の地域に移り住むようになり、それが山の地域が担っていた役割を東京西部の農村が担うようになります。狛江村でも、蔬菜や果樹の栽培が盛んになり、多摩川周辺には、梨や桃などの果樹園が広がっていました。昭和2年(1927)に小田原急行鉄道(現・小田急電鉄)が開通すると、宅地開発が緩やかに進み、工場も建設され、まちの景観が少しずつ変化していきました。

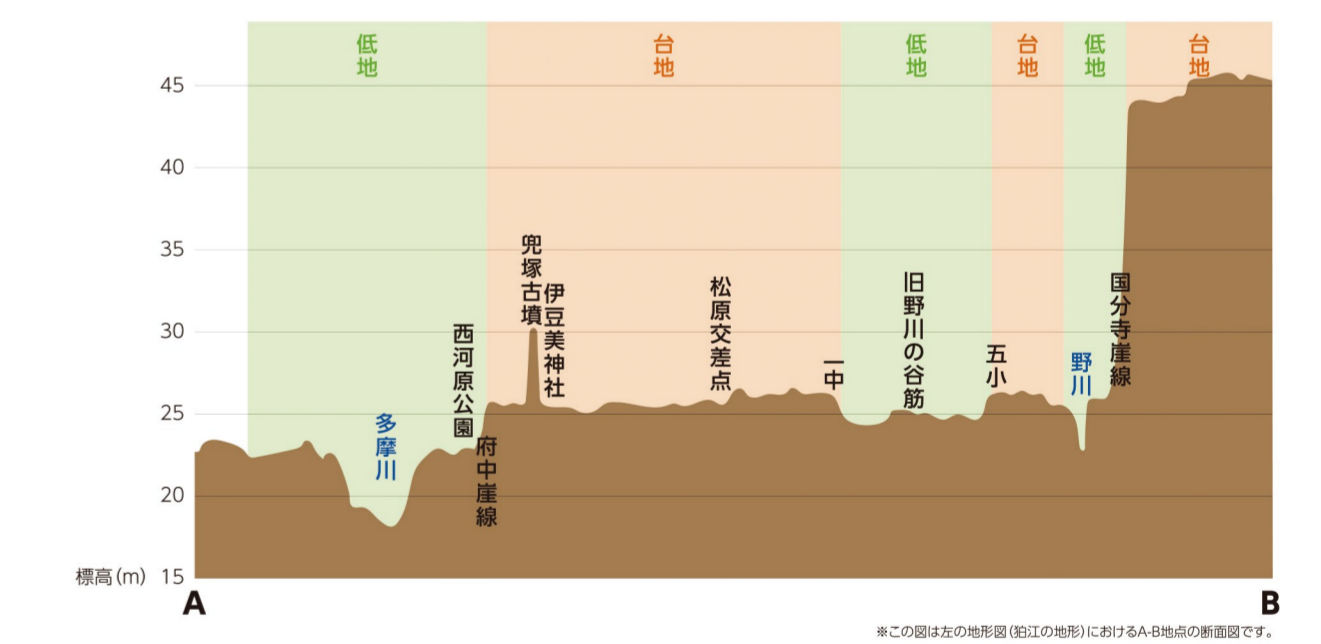
戦後の復興期には、農地の再生やインフラの整備などが進められ、昭和27年(1952)に町制が施行されます。さらに、高度経済成長へ向かう中で、急速に都市化が進んでいきます。住宅や工場が過密する都心部の人口が飽和状態になると、快適な住環境を求める人たちは鉄道沿線の郊外に注目し、多摩川の自然と武蔵野の野趣の残る狛江に多くの人が移り住むようになりました。そして、昭和45年(1970)に市制が施行されました。一方、急速な都市化は様々なひずみを生み、自然環境の悪化や、線路によるまちの分断が問題となりました。こうした問題を乗り越えるべく、環境美化や樹林地の保全などに取り組み、平成9年(1997)に、小田急電鉄と東京都による高架化複々線化事業が完了して、まちの一体化が進みました。そして、今も狛江市は、水と緑に恵まれた住宅都市として発展を続けています。

## 昭和50年代のまちの様子

住宅都市として発展していく中で、まちの景観も大きく変わっていきました。



## 狛江市の地形断面図



## 狛江も太古は海だった?!

武蔵野台地は、古の多摩川が運んだ砂礫が堆積してつくられた扇状地で、この武蔵野台地の南縁に沿って流れる多摩川が形成されたのは、約1万3,000年前のことと考えられます。狛江の多摩川の河原でも、新生代第四紀の更新世前期(約130万年前)の地層が露出し、この場所からステラーカイギュウやホボジロゾメの化石が発見されました。多摩地域の大部分には海が広がり、狛江にも海洋生物が泳ぎ回っていたことを物語っています。

## 自然とふれあう

### 狛江水辺の楽校

子どもたちが川に親しみ、自然とふれあえるよう環境学習の機会を提供しています。また、自然を通じて世代を越えた交流の機会を提供しています。

### 狛江弁財天池 特別緑地保全地区

陸軍大将荒木貞夫の邸宅の跡地で、昭和62年(1987)に、駅前の緑地と泉龍寺境内をあわせて「狛江弁財天池緑地保全地区」に指定されました。駅前の緑豊かな自然環境財産は、市と市民の協働で管理・保全されています。